171 明治十六年事件退学者再入学に付伺（抄）

〔明治十六年十二月二十八日〕

（欄外注記1）
本月十三日付ヲ以テ先般暴行ニ関シ退学申付候学生々徒再入学云々之件ニ渉リ委曲上申致シ置候処別紙〔甲号之二名ハ最初率先シテ自首致シ候者ニ有之乙号〕九十八名之者ハ暴行之際モ其所為極メテ軽キモノニシテ且ツ退学相命候以降ハ孰レモ一意謹慎悔悟之実効相顕レ候右等ニ付テハ各来ル十七年一月ヨリ再入学許可致シ度仍而此段相伺候条至急仰　裁可候也

（欄外注記2）

明治十六年十二月廿八日　東京大学総理　加藤弘之　印

文部卿　大木喬任殿

二伸本文御裁可之上ハ兼而上申致シ置候本人等義御省直轄学校并ニ全国一般公私立学校ヘ入学禁止之義モ同時ニ被相解候様致シ度此段副申候也

〔朱書〕〈書面具申之趣ニ因リ奥田義人外五十九名自今解禁候条入〉
〔朱書〕〈学差許不苦候事〉
〔明治十七年一月十二日〕　印

先般暴行ニ関シ退学申付候末諸学校ヘ入学禁止相成候学生々徒之内再入学許可之件ニ付去月十三日附ヲ以テ伺出置候処右甲号五十八名之者共ハ畢竟該時之勢ニ乗シ附従候迄ニテ決シテ真ノ暴行者トハ認メ得ヘカラサル程ノ者ニテ其情状最軽キモノニ有之殊ニ爾后悔悟謹慎ノ状相顕レ候ニ付可成速ニ解禁相成再入学差許候様致度且亦乙号二名之者ハ別紙始末書之通ニテ前陳五十八名ニ比スレハ自ラ差別モ有之候得共当時各生一致結合之体ヲ為シ違犯之有無ヲ甄別スルニ由ナキ折柄該二名ノ者率先自首致候ヨリ右結合モ相解ケ自然多人数ノ悔悟自首ヲ相促カシ処分上ニ於テモ甚タ便宜ヲ得タル儀ニ有之元来当時ノ場合ニ在テ率先自首致候儀ハ他生トノ関係モ有之頗ル為シ難キ情実モ可有之候処遂ニ右之如ク率先自首致候ハ真実前非悔悟之余ニ出テタル儀ニ有之加之爾后只管悔悟謹慎シテ再入学ヲ希望シ将来決テ再ヒ不都合ノ所為致間布旨申述居候儀ニ付右二名儀モ前陳五十八名ノ者ト同時解禁相成再入学差許度右ハ専門学務局長ヨリ照会之趣モ有之候ニ付此段更ニ及具申候条情実御調察之上特別之御詮議ヲ以テ最前稟請之通御裁可相成度再応稟請候也

明治十七年一月八日　東京大学総理　加藤弘之

文部卿　大木喬任殿

追テ乙号二名儀ハ甲号五十八名ニ比スレハ其情状ニ於テ自ラ差別モ有之候得共今般同時解禁相成候トモ他退学生トノ関係ニ於テ聊カ不都合之儀無之候間為念此旨副申候也

（欄外注記3）
理学部

土木工学第三年生　和田義睦
採鉱冶金学第四年生　石川直記

（欄外注記4）

法学部

旧第四年生　奥田義人
旧第三年生　荘　清次郎
太田　保
旧第一年生　都築初五郎
梶山源吾

理学部

旧採鉱冶金学　第三年生　田島已之太郎
旧第一年生　土井助三郎
小幡文三郎

文学部

旧哲学第二年生　坂倉銀之助
旧政治学理財学第四年生　添田壽一
同　第三年生　三原経國
長嵜剛十郎
旧第一年生　徳永満之
稲垣満次郎

旧古典講習科　甲部　第三期生　松本愛重
關根正直
戸澤盛定
佐藤定介
太田幸吉
若松釜三郎
龜山玄明

旧撰科生　齋藤徳五郎
有森新吉

予備門本黌

旧第一級生
大屋八十八郎　平田譲衛　能勢陳安
薄　貞吉　畔柳冨五郎　有賀長文

旧第二級生
城野春太郎　廣瀬吉郎　三上參次
杉浦吉太郎　田中靜治　朝比奈知泉
澤邊昌暦　西尾虎太郎　常松英吉
廣川新太郎　遠藤剛太郎　渡邊董之助
津田俊郎　加納哲次郎　戸倉馬三
瀧澤清介　松岡万次郎　髙槻純之助

旧第三級生
柳　祐久　服部　漸　吉井友兄
山根銀之助　原　龜太郎　黒岩倉太郎
柴田家門　田中勇四郎　野田十代次
野田藤馬

英語学専習科
佐野友三郎

（後略）

（欄外注記1）

「供閲　総理（加藤弘之）（花押）　同心得　同補助　幹事（服部一三）（花押）　各学部長（穂積陳重）㊞
（菊池大麓）（外山正一）㊞　㊞　予備門長（杉浦重剛）（花押）」

（欄外注記2）
「教務課（富塚恂）（花押）予備門記録掛（白木清彦）㊞　庶務課（石原助安）（花押）（市川寛繁）㊞」
（欄外注記3）
「甲号」
（欄外注記4）
「乙号」

〔『明治十六年十月二十七日事件書類』、㊞M6〕